

『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)』養成プラン』  
多職種がん専門医療人の教育・キャリア形成支援セミナー

定員  
100名

Zoom (Web開催)

2020年

12月12日

14:30～16:00 参加費無料

参加対象者 多職種の医療従事者(医師、看護師、薬剤師など)

主催: 7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン

### プログラム

14:30～14:35 開会の辞  
南 博信 (神戸大学大学院医学研究科腫瘍・血液内科学分野・教授)

14:35～15:10 講演 1

治療過程にある高齢がん患者に対する意思決定の“質”の支援

雄西 智恵美 (甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 看護学科・特任教授)

がん治療の著しい発展により、高齢者も積極的治療を受けることが普通の時代になっています。一方、患者中心の医療が定着しつつありますが、高齢者を思いやって家族が治療を決定したり、高齢者自身も周囲に気兼ねした意思表示をすることがあります。ゲノム時代になり、がん治療の複雑化・高度化に拍車がかかる今日、高齢がん患者の意思決定支援はより重要度を増しています。そして、今後の支援の焦点として、“どれだけ納得した意思決定”の支援ができるか、つまり意思決定の質が大事な視点になると考えます。質の高い意思決定支援のあり方について考える機会になればと思います。

15:10～15:55 講演 2

フレイル評価を組み込んだ高齢がん患者の治療戦略  
～人格中心主義の老年医学の視点の紹介～

千田 一嘉 (金城学院大学 薬学部 薬学科・教授)

人格中心主義の老年医学では人生を全うされようとする患者の「人格」について身体・精神・社会面から多職種協働で高齢者総合的機能評価(CGA)を行います。CGAに基づく治療戦略を十分説明し、患者・家族を含む医療・ケアチームで合意を形成し(Shared Decision-making)、その意思決定をチーム全体で共有したケアを実践します。患者の視点に立脚した心身の機能評価軸のフレイルで高齢がん患者を評価し、アドバンス・ケア・プランニング(ACP; 人生会議)のコミュニケーションの過程を活かす、がんの診断時から緩和ケアを含む統合的な治療・ケアを提案します。

15:55～16:00 閉会の辞  
南 博信 (神戸大学大学院医学研究科腫瘍・血液内科学分野・教授)

ゲノム時代における  
高齢者のがん医療

参加申込 以下より参加登録をお願いします。

<https://forms.gle/EWa8Gfc859Q5GkVG8>

お申込み後、ご登録アドレスへZoomウェビナーの事前登録の招待メールをお送りいたします。



【お問い合わせ】

神戸大学医学部 がんプロ事務局 TEL: 078-382-5820 • Email: ganpro-kobe@med.kobe-u.ac.jp

